

# 「水俣から学ぶ」

東日本大震災による原発事故を受け、多くの方が愛知県にも避難して来られている。特に将来ある子どもたちの健康を守るために、断腸の思いでふるさとから遠く離れ、勇気と覚悟を持って避難を選択された人々である。それを福島県の内と外、また 30km 圏の内と外などに分けて賠償が線引きされ、また世間はそれを「無関心」や「風化」といった言葉でさらに追い詰めている。本当にこれでいいのか。長きに亘り、水俣病の課題と闘ってきた谷氏をお招きし、今後の支援活動のポイントを学ぶ。



■日程：2012年2月22日（水）  
19:00～21:00

■場所：愛知県司法書士会館  
名古屋市熱田区新尾頭 1-12-3  
(金山総合駅南口徒歩 5 分)

スピーカー：谷 洋一 氏

(水俣病被害者互助会 事務局長)

■プロフィール■ 谷 洋一 [たに・よういち]

- ・1948年 福岡県八幡市（現北九州市）生まれ
- ・1969年 鹿児島大学農学部入学
- ・1971年1月 鹿児島水俣病を告発する会結成に参加
- ・1971年11月 自主交渉チッソ正門前座り込みに参加、裁判の支援活動などしながら、1年9ヵ月座り込みデモでの活動
- ・1974年8月 水俣病申請患者協議会結成、事務局として活動
- ・1984年5月「アジアと水俣を結ぶ会」結成、インドネシアの公害、インド・ボパール事件、マレーシア・イポーの公害輸出問題、フィリピン・ミンダナオの水銀汚染、中国・松江花の水銀汚染などの調査や被害者との交流支援活動に取り組む
- ・1987年2月「ベトナムに検診車を送る会」結成（以後、枯葉剤被害者支援活動）  
のちに「ベトナム枯葉剤被害者に連帯する水俣メコンの会」結成
- ・1987年2月 廃食油リサイクルの「水俣せっけん工場」設立に参加
- ・1991年1月「リサイクルせっけん協会」設立に参加
- ・1995年1月阪神淡路大震災の支援活動に取り組む
- ・1996年6月「水俣・ほたるの家」設立に参加
- ・2005年水俣病被害者互助会事務局（第二世代訴訟）
- ・2007年NPO法人水俣病協働センター設立、理事

[ 主な仕事 ]

水俣病被害者互助会事務局長、NPO法人水俣病協働センター理事、リサイクルせっけん協会事務局長、アジアと水俣を結ぶ会事務局長、津奈木甘夏生産者の会事務局 など

水俣病事件は今年公式確認から 57 年を迎える。2004 年 10 月関西訴訟最高裁判決によって、行政責任が確定して以降、新たな被害者の申し立ては 5 万人を超えた。水俣病被害の実態は未だ解明されておらず、被害者の数は益々拡大している。1932 年以來チッソ水俣工場はメチル水銀を垂れ流し、不知火海沿岸地域住民 50 万人に被害を与えた。そして、熊本県は 1960 年から 1962 年までおこなわれた毛髪水銀の 2700 人余のデータを隠し、被害の実態を隠ぺいしてきた。今回、原発事故に際し、SPPED1 の放射能汚染データが、飯館村や浪江町の住民に公開されなかったと同様のことが 50 年前起こっていたのである。水俣から福島へ伝えなければならない教訓は多い。そして今も水俣では 5 つの訴訟が継続し、被害者の闘いは続いている。

■対象：愛知県内の県外避難者の支援活動に関わる人、震災関係者、一般オブザーバー（30 名程度）

■参加費：無料

- 主催 震災がつなぐ全国ネットワーク
- 共催 愛知県被災者支援センター パーソナルサポートチーム